

2019年3月期第2四半期 決算説明会資料

2018年11月8日
日本ケミコン株式会社

CONTENTS



- **2018年度の経営環境**
上期概要と今後の注力市場見通し
- 2018年度下期・通期業績見通し

2018年度上期製品別売上高実績

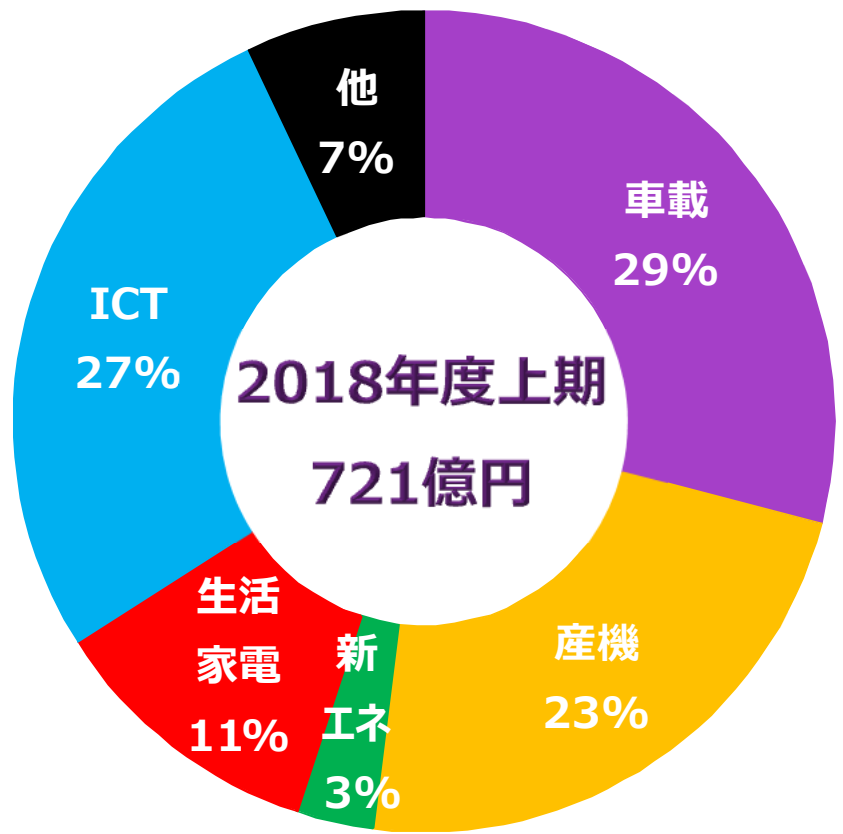
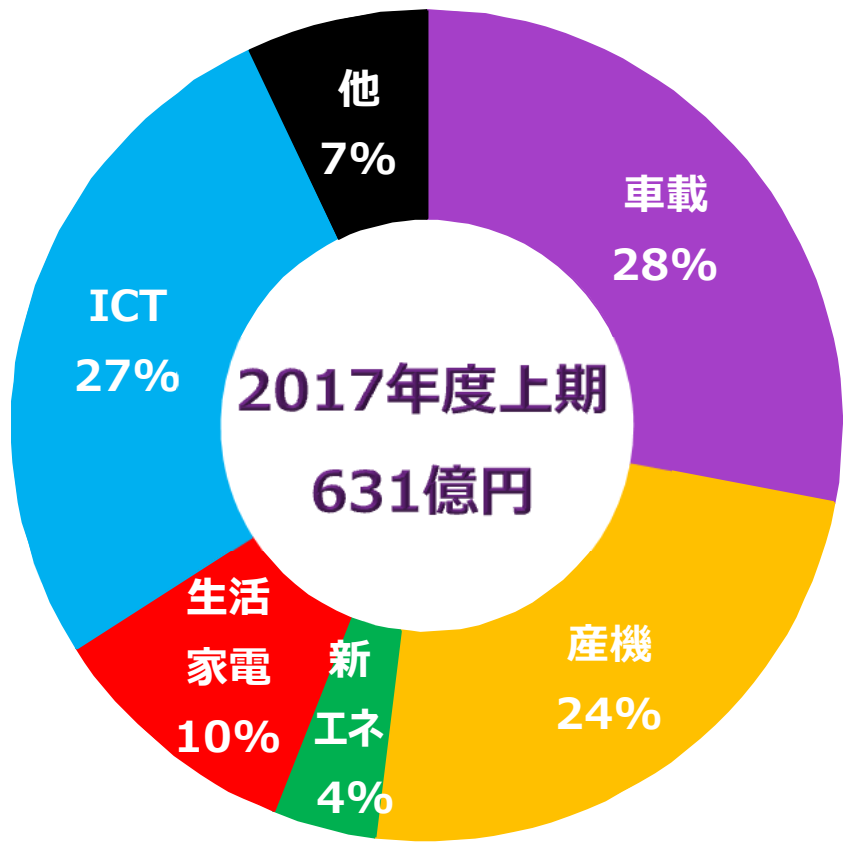
アルミ電解、機構、コンデンサ材料、その他が前年を大きく上回る

単位：億円

	2018年度 上期実績	2017年度 上期実績	増減額	増減率	2018年度 上期計画	増減額	増減率
アルミ電解	606	532	+74	+14%	581	+25	+4%
DLCAP™	21	23	-2	-10%	22	-1	-5%
セラミックコンデンサ、バリスタ	18	17	+1	+3%	19	-1	-5%
機構(コイル、モジュール)	19	15	+4	+30%	18	+1	+5%
コンデンサ材料	38	33	+5	+16%	35	+3	+9%
その他	19	11	+9	+83%	15	+4	+27%
合計	721	631	+90	+14%	690	+31	+4%

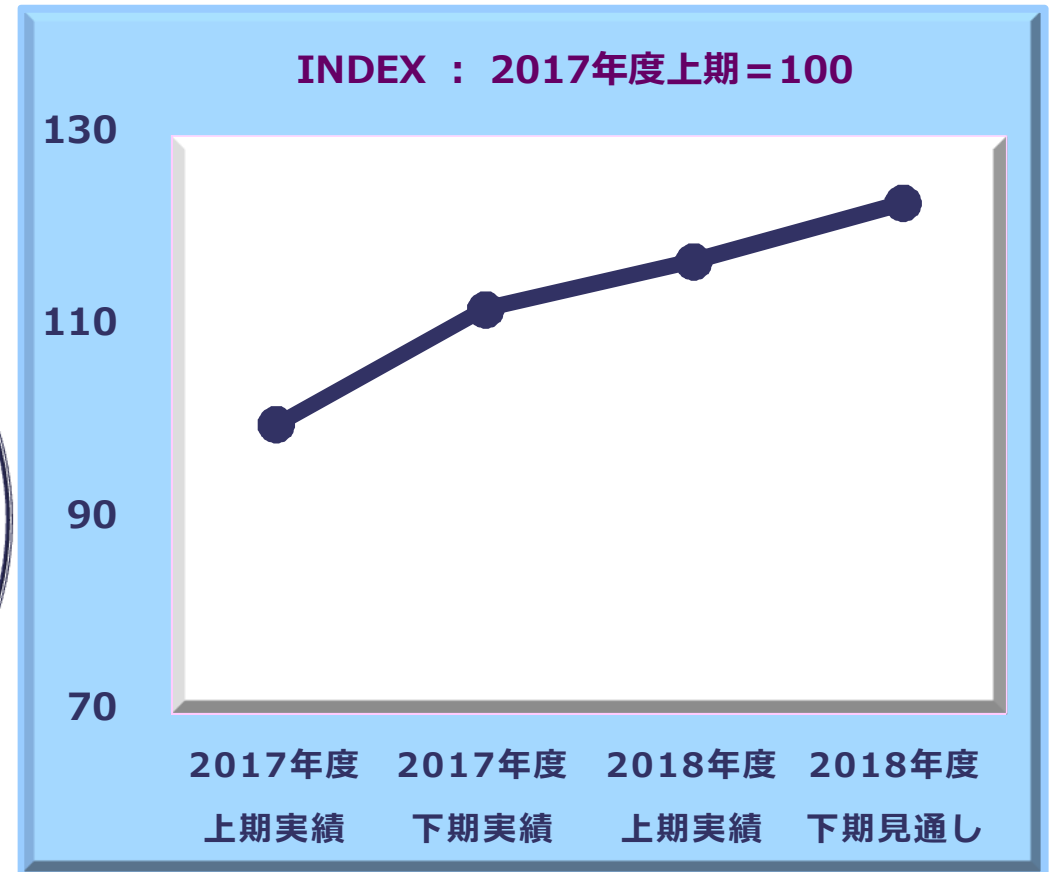
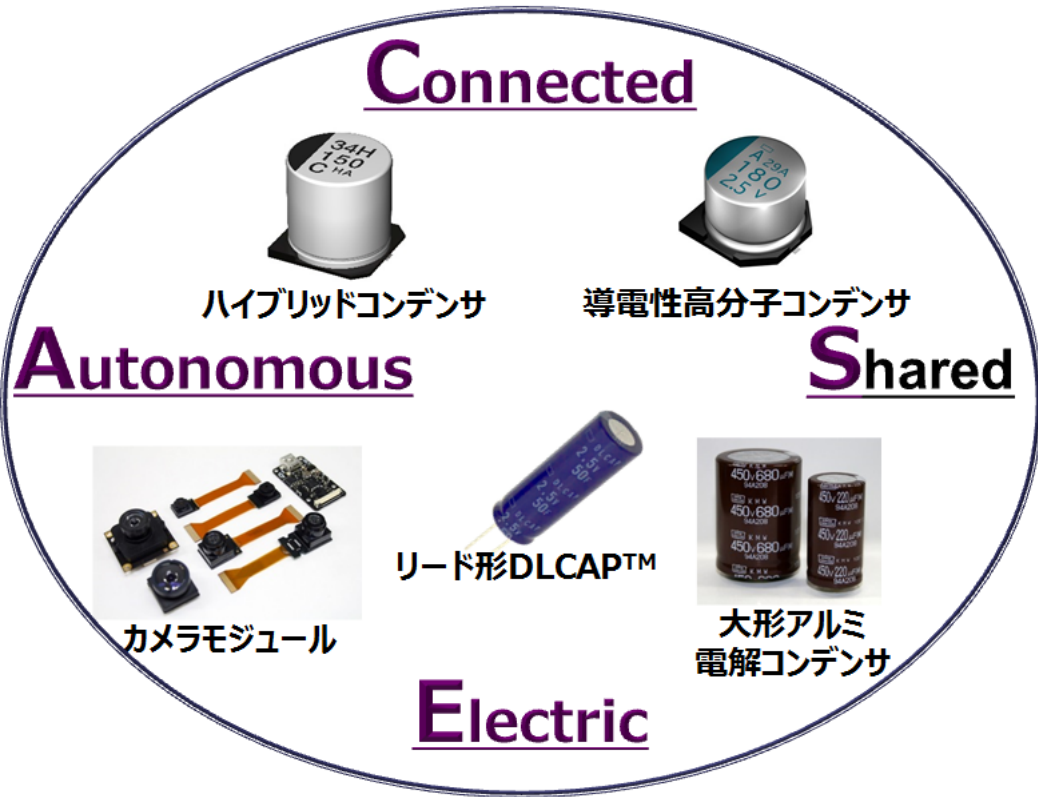
市場別売上高構成 2017年度上期 ⇒ 2018年度上期

車載新市場（自動走行、48V化など）、エアコン市場が着実に拡大



今後の注力市場見通し

車載市場は100年に一度の変革期
導電性・ハイブリッドコンデンサへの注力



今後の注力市場見通し

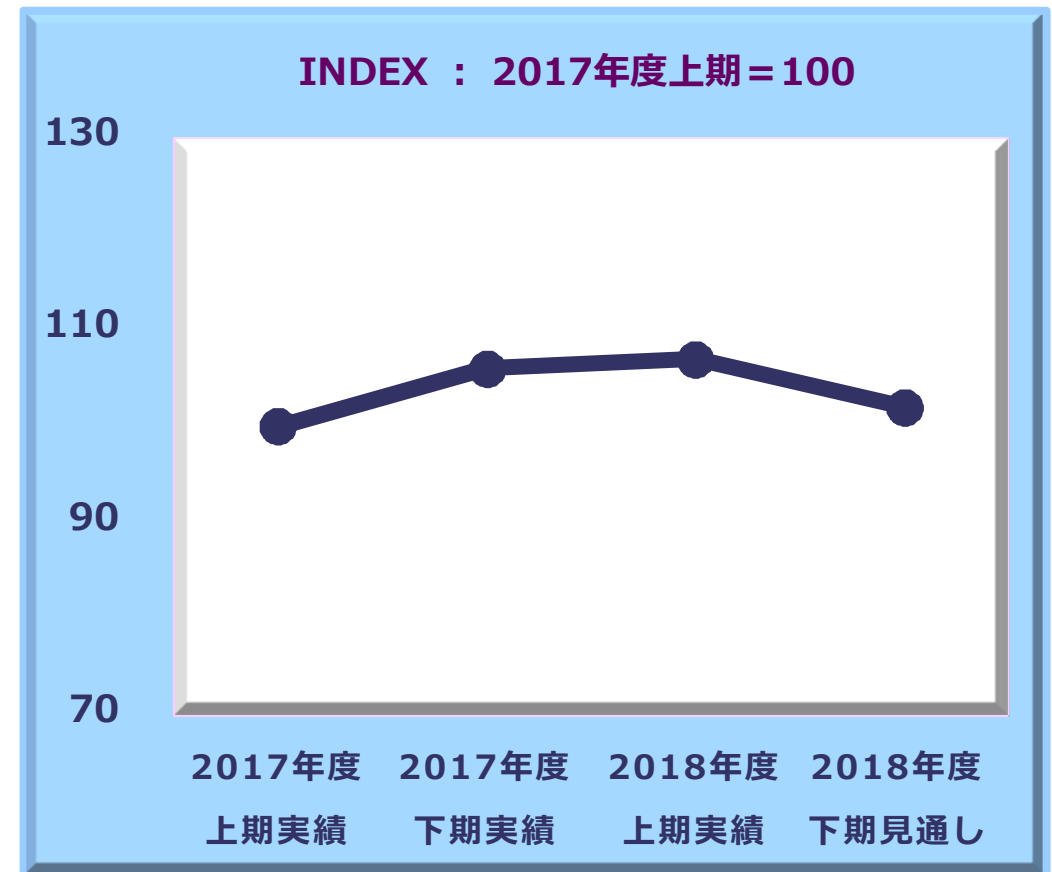
産機市場は旺盛な投資から一服感

需要変化（設備投資、在庫等）

1. 米中貿易摩擦の影響
2. スマートフォン需要の低迷
3. 中華圏代理店の在庫調整

中長期的見通しに変化なし

1. 人手不足、人件費高騰
2. 産業用ロボットの拡大
3. 競争力強化のための積極的なインフラ投資

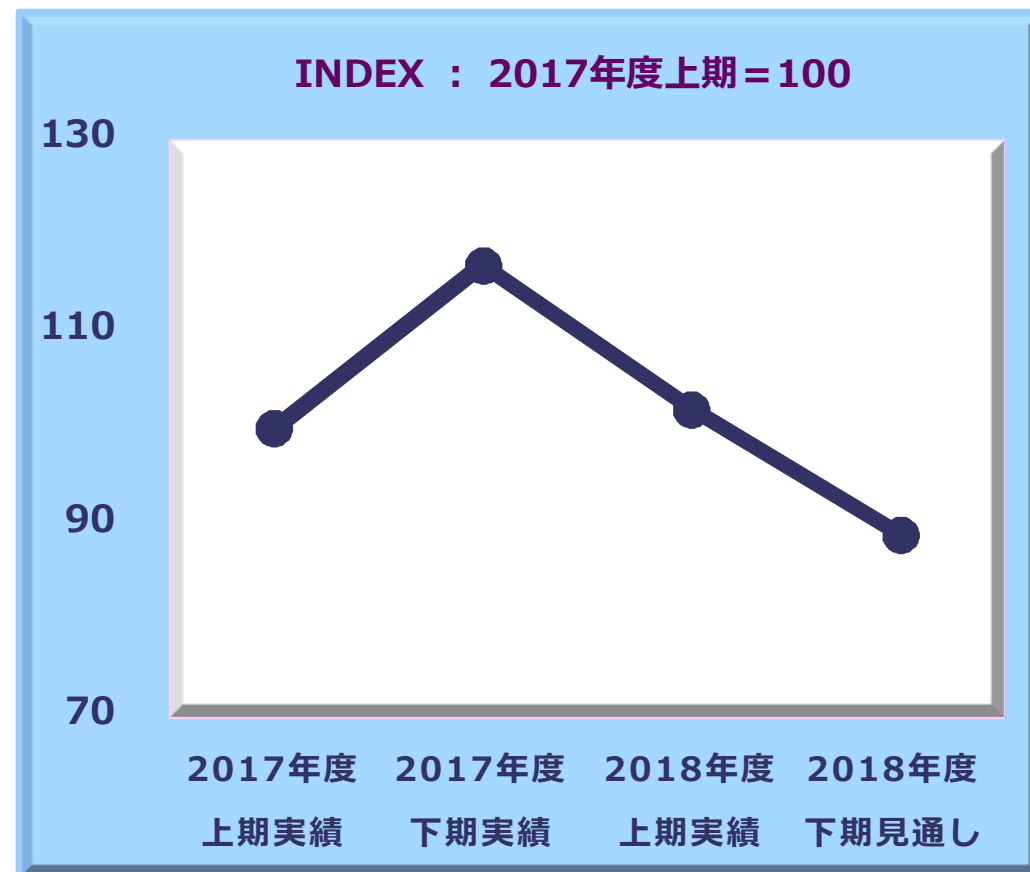


新エネルギー市場はしばらく停滞

中国政府の政策変更

中国政府機関の国家発展改革委員会(NDRC)、財務省、国家エネルギー局(NEA)は5月31日に太陽光発電に関連する政策の変更を発表した

今年度は太陽光発電は補助金削減など抑制の方向へ



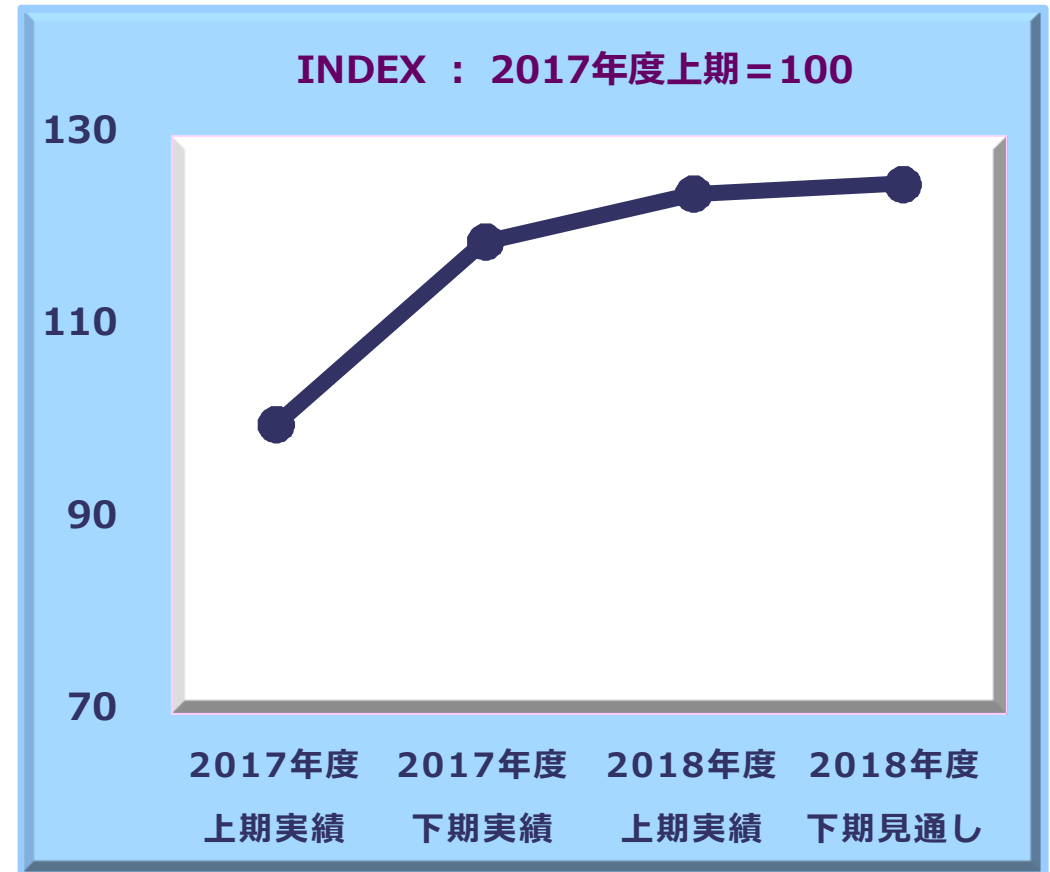
今後の注力市場見通し

生活家電市場はインバータ化がさらに進展

エアコン

- 日本 公立全小中学校にエアコンを設置（来年夏まで）
- 欧州 個人消費の回復と温暖化により増加
- 中国 大型の不動産投資の抑制が懸念材料

冷蔵庫、洗濯機、掃除機
各機器のインバータ化が進展

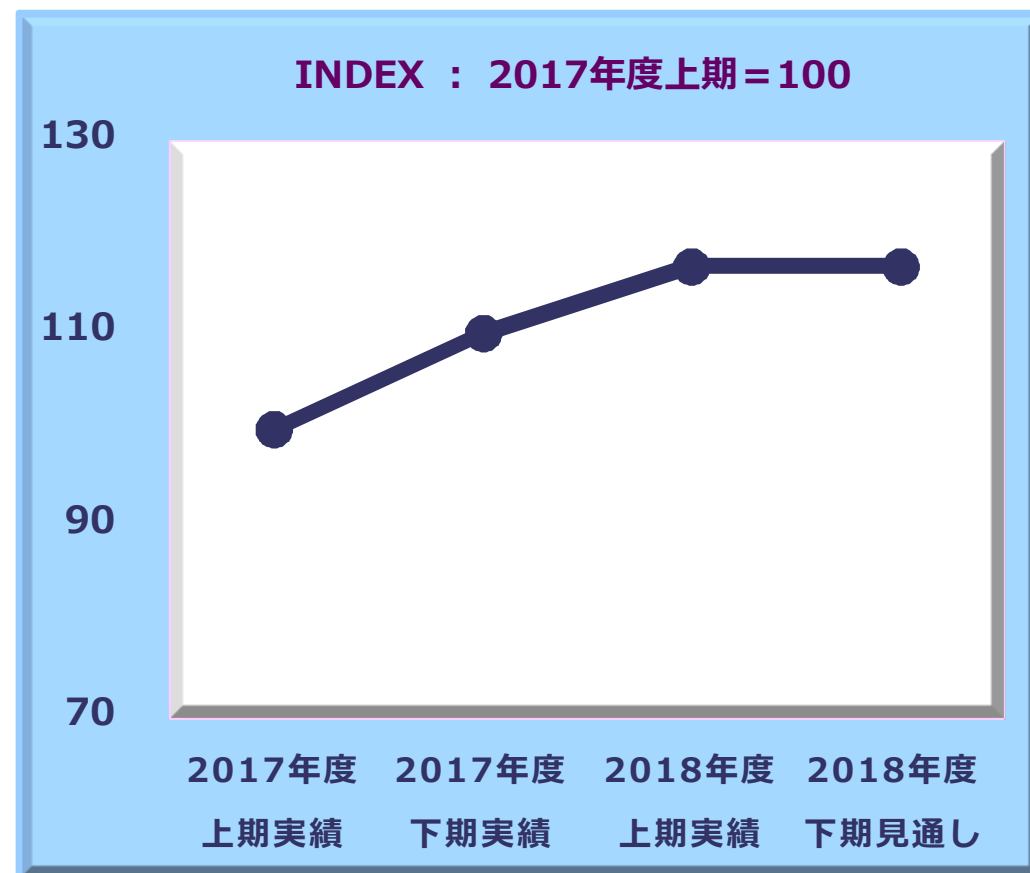


ICT市場は需要の底打ちから回復へ

マザーボード
データセンター向けサーバー
が堅調

通信5G
4Gから移行、通信基地局需要
の拡大

据え置きゲーム機
人気ソフトウェアとともに
安定的に需要拡大



CONTENTS

- 2018年度の経営環境
上期概要と今後の注力市場見通し
- **2018年度下期・通期業績見通し**

2018年度通期業績見通し

車載、生活家電、ICT市場の堅調さを背景として売上高・利益ともに増収増益の見通し

単位：億円	2018年度	2017年度	前年度比		2018年度	当初計画比	
	修正計画	実績	増減額	増減率	当初計画	増減額	増減率
売上高	1,440.0	1,333.6	+106.3	+8.0%	1,400.0	+40.0	+2.8%
営業利益	75.0	58.1	+16.8	+28.9%	75.0	0.0	0.0%
売上高比率	5.2%	4.4%	－	+0.8pt	5.4%	－	▲0.2pt
親会社株主に帰属する 当期利益	28.0	▲160.5	+188.5	－	55.0	▲27.0	▲49.0%
売上高比率	1.9%	▲12.0%	－	+13.9pt	3.9%		▲2.0pt
ROA	2.0%	▲11.3%	－	+13.3pt	3.8%	－	▲1.8pt
ROE	5.6%	▲28.6%	－	+34.2pt	10.7%	－	▲5.1pt
設備投資	100.0	75.2	+24.7	+32.9%	100.0	0.0	0.0%
減価償却費	70.0	61.0	+8.9	+14.7%	70.0	0.0	0.0%
研究開発費	43.0	42.0	+0.9	+2.2%	45.0	▲2.0	▲4.4%
平均為替レート (円) USドル	110.13	110.85	－	－	105.00	－	－
ユーロ	127.43	129.70	－	－	125.00	－	－

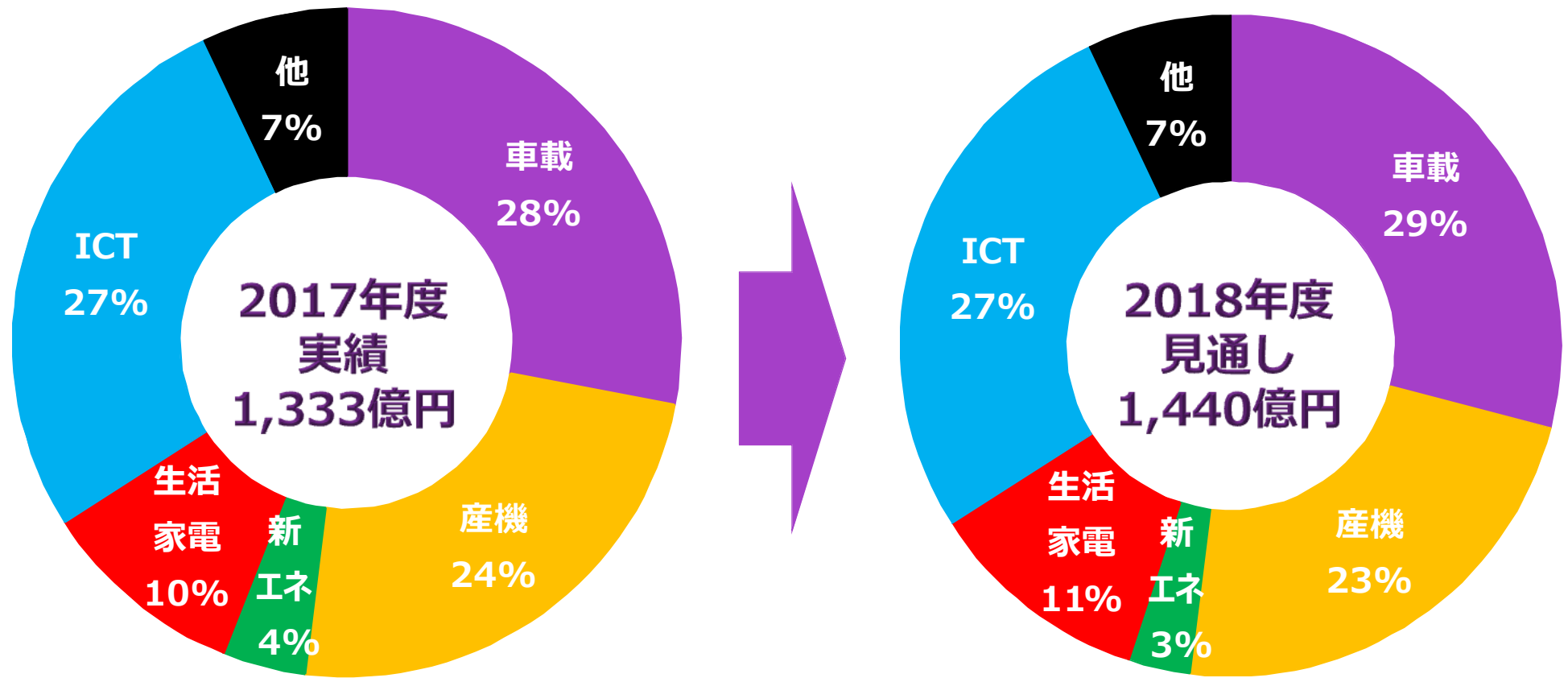
2018年度下期・通期製品別売上高見通し

旺盛な車載新市場の進展により、特にアルミ電解コンデンサ、カメラモジュールが堅調な動き

単位：億円	2018年度 修正計画	2017年度 実績	増減額	増減率	2018年度 当初計画	増減額	増減率
アルミ電解	1,212	1,126	+86	+8%	1,180	+32	+3%
DLCAP™	45	44	+1	+2%	45	0	0%
セラミックコンデンサ、バリスタ	39	36	+3	+8%	39	0	0%
機構(コイル、モジュール)	37	32	+5	+15%	37	0	0%
コンデンサ材料	73	71	+2	+3%	71	+2	+3%
その他	34	24	+10	+40%	28	+6	+21%
合計	1,440	1,333	+107	+8%	1,400	+40	+3%

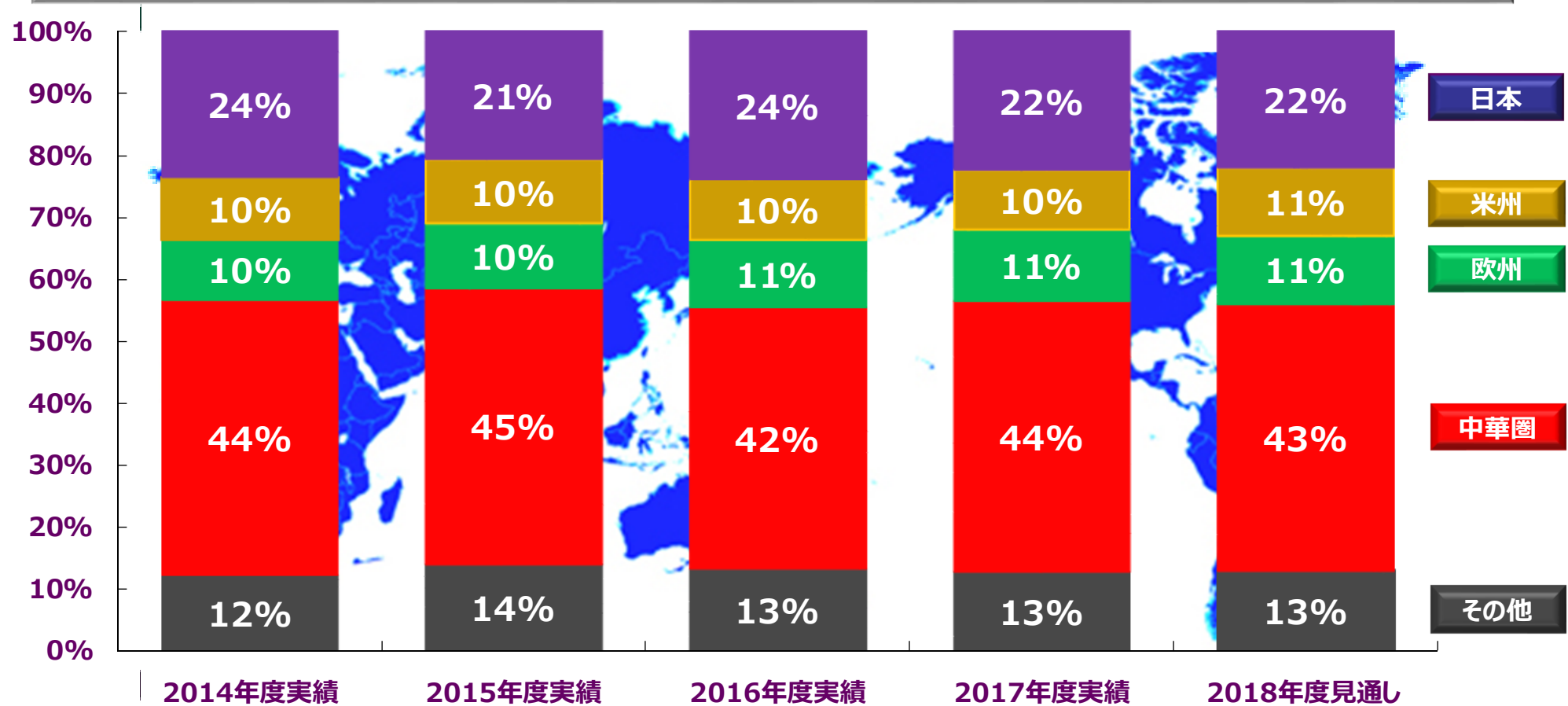
市場別売上高構成 2017年度実績 ⇒ 2018年度見通し

米中貿易摩擦による先行き不透明感はあるものの、車載・生活家電市場が堅調



地域別売上高構成比推移

米中貿易摩擦の影響により、中華圏生産の一部が米州など他地域へ分散



2018年度通期見通しの概要

プラス面

1. 導電性・ハイブリッドコンデンサ
車載、サーバー市場が急拡大
2. カメラモジュール
車載、産機市場が堅調
3. シリコンウェハ販売好調

マイナス面

1. 材料、電力価格の高騰
2. 米中貿易摩擦による懸念
中国経済成長の減速
3. 中国太陽光発電
急減速

高収益製品のさらなる増産と低収益製品の抜本的収益改善

今後ともご支援のほど宜しくお願い申し上げます。

〔注意事項〕

本資料で記述されている業績予想並びに将来予測につきましては、本資料作成時点において入手可能な情報により当社が合理的に判断した予想であり、実際の業績は、今後、様々な要因により変動する場合がございます。また、本資料に記載されている将来予想に関する事項についてその内容を更新し、公表する責任を負いませんのでご了承願います。投資に関する最終決定につきましては、投資家の皆様ご自身の判断で行われますようお願い致します。本資料の内容に基づいて投資された結果、万一何らかの損害を被られましても、当社及び各情報の提供者は一切責任を負いかねますので、併せてご了承願います。

〔Note〕

The projected performance figures in this material are based on information available to Nippon Chemi-Con's management at the time this material was prepared.

There are many uncertain factors inherent in forecasting, and there might be cases in which actual results differ from forecast values. Nippon Chemi-Con undertakes no obligation to publicly update or revise any forward-looking statements included in this material.

If you are interested in investing in Nippon Chemi-Con, you are requested to make a final investment decision at your own risk.

Please note that neither Nippon Chemi-Con nor any third party providing information shall be responsible for any damage or loss you may suffer due to investment in Nippon Chemi-Con based on the information shown in this material.